

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-5-51893 認定NPO法人北海道自由が丘学園)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <https://www.hokjioka.net> E-mail : codmoka@b216.blowth-net.co.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通信を配布します。

INDEX

P1:巻頭言

P2:ヒューマントラスト/スクール実践、
運動、会費納入、物販他

p3:まおい 近況、教育情報

p4-5: スクール「秋まつり」

出店/飲食・ゲーム、発表/動画

p6-7: スクール「成長の記録」

p8:エッセー/カレンダー他、

*「チラシ」:

◆ 12月行事から ◆

- ・11 月秋まつり(p4-5 記事)を終え
12 月 18-19 は学期末イベント。
- ・初日/発表会後の特別授業。理科
担当「動物カルタ」～生徒作の札
(7枚)でチーム対抗神経衰弱
(2 日目:食育・室内レク・外運動・)
- ←囲み写真:作品を玄関展示



「これまでの実践に確信をもち、人間教育をさらにおしすすめていこう」

田中 実 (元北海道教育大学)

2026 年は「新しい教育・学校をめざす研究会」から 40 年、「北海道自由が丘学園をつくる会」結成から 35 年の節目の年を迎えます。それらの会の発足の中心となり心血を注いでこられた鈴木秀一さんは、「子どもの認知的興味にもとづき、認識上の課題に集中して取り組む活動」を組織すること。そして「子どもたちが深い興味や関心を示し、意欲の高まりを示し、確かに理解するだろう、習得するだろうという保証」のための、教材研究の重要性を指摘していました。それは何よりも子どもたち自身が認識の主体として成長することを期待していたからでした。

かつて東大の大田堯さんから、大学院での最初の教え子が鈴木秀一さんであったお話を、聞かせていただいたことがあります。その大田堯さんは、教育とは「生きた現実、自然や社会や人間そのものへの問いを主体として子どもの中に組織し、育てる」となみである。」それは「人間が人間として存在するそのことにとって、もっとも本質的なことの一つ」であると述べています。大田さんと鈴木さんの指摘は、子どもを主体者である人間に育てるための、人間教育の本質とその方策とを述べたものです。

大田/鈴木という教育学者の思想を底流に、北海道自由が丘学園は《北の大地に「自由と協同の学び舎を！」》をめざしたとくみを積み重ね、今回、人間教育の実践記録がまとめられました。さらに、まおい学びのさと小学校の設立も加わり、この流れはいよいよ大河になりつつあります。多くの困難を超えてきたこれまで 40 年の歩みに確信をもち、今後のさらなる発展に向け幅広い市民を土台に、フロンティア精神を盛り上げていこうではありませんか。

〔筆者は中学校教師を経て研究者に。長年本法人の会員で、以前は理科授業も出前して頂きました〕